今泉の 源太坂

昭和六十三年三月五日号

頼朝の名馬

県立吉原高校の西方百メートル付近の丘から、西へ向かう下り坂が源太坂です。梶原源太景季と佐々木四郎高綱の馬比べの物語を伝える場所です。

それは寿永二年(一一八三年)、源頼朝が挙兵したころの話です。そのころ、頼朝は生食、磨墨という二頭の名馬を持っていました。武将梶原源太は日ごろから、生食をほしいと思っていたので、

「ぜひ、私に生食をください」

と願い出ました。頼朝は、

「生食と磨墨は、わしがいざというときに乗る馬だ。だれにもやらない。しかし、どうしてもと言うなら磨墨をやろう」

ということで、景季は頼朝から磨墨をやっと

もらいました。

後から頼朝にあいさつに行った佐々木四郎は、とても望んでもだめだとは思いましたが、

「私に生食をください」

と思い切って願い出てみました。頼朝はしばらく考えていましたが、「そなたに生食をやろう」と案外簡単に生食をくれました。

今泉の小高い丘で

おもしろくないのは梶原景季です。今泉の小高い丘で、

「佐々木殿、生食を殿からもらってきたのか」

となじるように聞きました。高綱は笑いながら、小声になって、

「実はご貴殿が欲しいとお願いしてもだめだった生食を、それがしごときがお願いしてもとうてい望みはないと思ったので、昨日の明け方、そっと盗んできたのだ」と言いました。

これを聞いた景季は、急に顔を和らげて、

「畜生！そうだったのか。それならそれがしも盗めばよかった」

と笑いながら引き上げたそうです。

その後、生食と磨墨の二頭の名馬は宇治川の先陣争いで互いに競い、立派な手柄をたてたそうです。

昭和20年代の源太坂